

令和4年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る事後評価結果

領域番号	4901	領域略称名	炎症細胞社会
研究領域名	予防を科学する炎症細胞社会学		
領域代表者名 (所属等)	松島 綱治 (東京理科大学・生命医科学研究所・教授)		

(評価結果)

A－（研究領域の設定目的に照らして、概ね期待どおりの進展が認められるが、一部に遅れが認められる）

(評価結果の所見)

本研究領域は、シングルセルトランスクリプトーム解析を基盤とし、個々の細胞の相互作用による炎症細胞社会のシミュレーションモデルを構築することで未病状態を解明し、新たな予防医学の展開を目指したものである。炎症状態における「場の記憶」を細胞集団の状態変化として捉えるのは斬新なアプローチと言える。総括班のもとに、炎症細胞社会解析センターを設置し、種々の先端解析の支援を実施し、個々の優れた研究成果を生み出してきた点、領域内の若手研究者の育成が活発に行われた点は評価できる。一方で、個別の学術分野における成果に比べて領域内の連携研究の成果が読み取りにくい点、炎症細胞社会の相互作用やそのパターンから予測される慢性炎症疾患モデルの一般論を構築し、具体的な成果を産出するまで十分に進展しなかった点は残念である。

今後、本研究領域で育った諸研究が更に発展し、ヒト疾患の理解につながり、具体的な炎症抑制の新たな戦略につながることを期待する。加えて、本研究領域により構築された意義ある成果物である「炎症細胞社会データベース」の公開・共有化と継続的な発展が望まれる。